

平成30年度 調布市立 神代中 学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年と第2学年において数学の習熟度別少人数授業を実施し基礎学力の定着を図ることができた。 ①教科の中でも、習熟度授業においてICTを活用して、生徒にとって分かりやすい授業を実施することが出来ていた。 ②生徒による授業評価を1・2学期に実施し、授業改善推進プランを活用することにより、職員の授業力向上にもつながった。 3年生の全国学力調査、2年生の東京都学力調査とともに、全国や東京都の平均を上回る成績であり、習熟度別学習などの効果が現れていた。 ①特に3年生の全国学力調査では、国語・数学では知識、活用ともに全国・都の平均を上回った。理科では平均に及ばなかったが、それに近い数値が表れていた。 ②2年生でも、理科では教科の内容が平均を下回ってしまったが、ほぼ平均値が保たれていた。 社会では、教科内容・読み解く力も、平均を大きく上回り素晴らしい結果が現れていた。 長期休業中には学習補充教室を開催し、休業明けには学年ごとに教科別的小テストなどを計画的に実施することができた。 「特別な教科 道徳」について1年生で研究授業を行った。 3学期には、道徳研修に参加した道徳担当教諭が校内研修として研修で学んだ事を全職員に対して伝達講習を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度まで、少人数習熟度別授業は1・2年生の数学だけの実施でしたが、次年度から英語でも行えることにありがたく感じました。無理かもしれませんが、全学年で実施できるとさらにありがたいです。 少人数授業のクラス分けについて、生徒の意見も参考に決めるとよい。 2年、3年の調査では、素晴らしい結果でした。継続的に御指導よろしくお願い致します。 授業参観をしたとき、学校全体がとても落ち着いた環境で授業が進められており、規律ある授業を行うことにより、更なる学力の向上を望みます。 授業参観の中で行われていた、生徒同士による教え合う授業を全授業で実施できると、より学力の向上ができると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度からは、数学・英語の少人数・習熟度別授業を1～2年生で実施する。 新学習指導要領実施に向け、生徒の学び合い学習を取り入れ生徒主体の授業が展開できるようにし、学習成果を向上させる。 中堅・若手教員には、研究発表や他校の授業見学を啓発し、授業力の向上を目指す。校内においても、教師同士がお互いの授業を観察することにより、お互いの授業に関心を高め、学校として教科ごとの指導力育成に意識を高める。 朝学習や朝読書を実施させ、家庭学習の習慣を身に付けられるように学習環境の構築を図る。 	A
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートより、86%の生徒が「学校に行くのが楽しい」と感じ、上級生になるほど「悩みや相談を聞いてくれる友達がいる」と約90%の生徒が感じてくれた。 挨拶ができ、基本的な生活習慣も90%以上の生徒が出来ていると感じていた。 2年生は10月にサウジアラビア大使館、1年生は2月に留学生が先生を招聘し国際理解教育を実践した。 2年生は職場体験前にハローワーク職員による職業講話をしていただいた。 3年生全員が普通救命講習を受講させることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くことが楽しい」と感じる生徒がさらに増えるよう、生徒の意見を聞き入れながらの学校経営をお願いします。 挨拶については、誰もが大切と考えておりますので、いつでも挨拶が生徒全員が元気にできるよう御指導ください。 オリンピック・パラリンピックに対する取り組みとして、多くの国際交流を目指していただけたらと思います。 新校舎ができ、図書室や音楽室、美術室、少人数教室ができるので、しっかりと活用し、大切に利用してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行を今後、積極的に取り組み、基本的な生活習慣を身に付けさせ、望ましい人間関係を構築するためにも、いじめ防止や不登校生徒への対応を積極的に取り組む。 生徒・保護者が安全に安心して通学できる学校を目指す。さらに、職員も働きやすい環境となるよう組織全体で取り組む。 他者の意見を尊重し、自分の考えをまとめ発表して、相手に伝わる力を身に付けられる人間を育成する。 自らの進路を真剣に考え、発達状況に応じた計画的なキャリア教育を推進する。その為に、勤労観・職業観を育成する。 国際理解教育を推進するため、オリンピック・パラリンピック教育を推奨し、アスリート等の講師を招聘し学習に取り組む。 	A
健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 11月にオリンピック・パラリンピック教育の一環として、北京パラリンピック選手で金・銀・銅メダルを獲得した自転車競技の選手である、石井選手を招聘し、講演会を実施した。また、その前週に調布警察署の交通安全課と連携を図り、自転車等の交通安全指導を実施し、2週続けて、交通事故や自転車事故防止に向けて、生徒に交通事故などの恐ろしさを指導した。 1年生はブラッシング指導、2年生は薬物乱用防止教室などを実施するにあたり、外部機関との連携を図った。また、学校保健委員会も11月に開催することが出来た。 生徒アンケートの「学校の清掃活動がしっかりと行われている」という問いに対して98%の生徒が肯定的な意見をもっていた。 保健体育科と部活動の顧問が連携を図り、学校全体の体力向上を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピック教育では、毎年様々な計画を有り難うございます。次年度も開催するようなので、より生徒に関心を高められるような計画をお願いします。 健康教育の取り組みは継続的にできればありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年のオリンピック・パラリンピック大会を念頭に置き、「オリンピック・パラリンピック推進校」の取り組みについて、今年度より具体的な計画を立て実践する。 市内の保健関係や他機関との連携を図り、生徒の健康づくりに関心意欲を高めさせる。また、保護者にも学校保健委員会への積極的な参加を促し、学校全体での意識を高める。 保健体育科と部活動顧問との連携を図り、本校生徒全体の体力向上を目標とする。体力調査結果などを分析し東京都の平均値を超えるよう具体的な計画を立てさせる。 学校生活の中で、過ごしやすい環境を設定できるよう、職員・生徒から情報を収集し、事務・副校長と協力して環境づくりを目指す。 	B
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやHP等で情報を発信することができた。 自転車登校者による交通事故が数件あったが、市役所との連携により事故現場に注意喚起できる看板を設置することができた。同時に生徒達に交通安全を呼びかけることにより、指導徹底がおこなうことができた。 生徒達が安全に下校できるよう、部活動終了時間を徹底し下校時間の厳守ができた。 生徒会は地区の防災訓練に、合唱部は地域コンサートに、部活動においてPTA活動の夏季休業日の清掃活動や地域運動会の活動に参加することができた。 生徒アンケートの「神中生としての誇りを感じている」生徒が約90%の生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信はとても大切なので、定期的なタイムリーに発信していただけたらと思います。 自転車での事故は毎年ようですが、ヘルメットの着用が義務づけられ、段々に改善が成されてきました。ヘルメットでは、生徒によってあごひもの正しい着用が成されていない生徒も目につきます。今後とも指導をお願いします。 指導は継続的に続けることが大切です。 地域行事への教職員・生徒の参加はとても感謝しております。一層の参加をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより・HPでの情報発信は継続的におこなう。 生徒、保護者アンケートはよりよい物にできるよう、校内で検討させる。 自転車登校者に対して、地域の力を借りて自転車の点検活動を実施する。保護者の協力を得て、確実に自転車保険の加入を促し、自転車登校の許可を発行する。また、自転車登校者対象の生徒指導にも力を入れる。 地域行事に生徒・職員が積極的に参加できるよう助言し、協力体制を構築する。 あらゆる面で、神中生としての「誇り」をもって行動できるように指導していく。 	A
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の職員会議後に職員間でのOJTを実施し、職員の資質向上に努めた。 食物アレルギー研修もシミュレーショントレーニングを含めて、3回の研修会を実施した。 夏季休業日のPTA主催の美化活動、地域防災訓練、地域運動会に生徒・教職員を可能な範囲で参加させることができた。 地域への小学校に出前授業を実践することができた。 特別な支援を必要とする生徒が通常学級にも多く在籍しており、特別支援校内委員会で、指導法やその生徒に対する対処法を話し合い、情報交換をおこなないながら、学校全体に周知することができた。 教室に入れない生徒等に対して、特別支援校内委員会で学習室や特別支援学級などを検討する場として、スクールカウンセラーを交えて検討する場を設置し、相談し合う場を設置することができた。 体育祭や合唱祭を通じて、生徒同士が上級生から下級生への指導を行い、伝統を引き継いでいけるよう取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも、先生同士の資質向上ができるよう体制づくりをお願いします。 食物アレルギーは安心したときに起きたりしますので、継続的にしっかりとご指導をお願いします。 特別支援教育や教室には入れない生徒の指導では、個別に応じた指導で有り、ご苦勞様です。生徒一人一人を見守ることですが、地域でも見守りますので、学校全体での共通理解の上、対応をお願いします。 体育祭や合唱祭での上級生から下級生への指導は毎年関心をしております。是非、無くさないよう続けていって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の向上を目指し、校内でのOJTを実践する。 特別支援、教室には入れない生徒のの為に、SCとの関わりを大切にして、特別支援校内委員会の開催を継続し、職員への周知を徹底する。不登校生徒に対しては、早期の対応ができるよう指導体制の構築をする。 地域小学校との連携を大切に、出前授業や小中連携会議を推奨していく。 行事を通じて、上級生・下級生のつながりを大切にして、伝統を受け継がせる。 	A